



# CLUB NEWS

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック  
山形中央ロータリークラブ  
ロータリアンの豊かな創造力・発想力で  
新たな一歩を皆で踏み出そう



vol.  
**1311**  
2022・2023  
MEETING

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日 12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形



- 会長 長石山 徳昭
- 会長エレクト 玉ノ井 憲史
- 副会長 長谷川 淳
- 直前会長 長橋 正人
- クラブ管理運営 本間 雅之
- 職業奉仕 斎藤 真
- 社会奉仕 相川 博昭
- 青少年奉仕 奥山 宏
- 国際奉仕 柴田 修英
- 幹事 佐竹 猛
- 副幹事 高橋 恭治
- 会計 青柳 紀子
- S A A 高橋 恭治

国際ロータリー会長 江ノ川 洋一(カナダ)  
第2800地区ガバナー 佐藤 孝子(鶴岡)  
第5ブロックガバナー補佐 後藤 卓也(山形伊達)



イマジン  
ロータリー

◆日時/2023.1.31 12:30 ◆例会会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/それこそロータリー

### 会長挨拶



皆さんこんにちは。新年を迎え丁度今日で一か月経ちました。私の会長職も残すところ丁度5ヶ月となります。

その様な中、30周年事業もいよいよ本格的に始動します。来月14日には

鹿兒島城西クラブさんへ、さらには3月上旬には台北永楽クラブさんへ長橋30周年実行副委員長、小林実行幹事、佐藤太実行副幹事のお三方にクラブを代表して行っていただきます。皆さんには改めまして周年事業成功に向けご協力を宜しくお願いします。

さて、本日は久しぶりのゲスト卓話として日本赤十字山形県支部事業推進課長の長谷部儀典様にお越し頂いております。後程、卓話を頂戴しますので長谷部様宜しくお願い致します。

ところで、先週からの大寒波では雪掃きなど大変ご苦労されたことと思いますが、今回の記録的寒波で石川県内では4,300世帯以上で断水が発生し、多くの住民が大寒波の中断水と言う異常事態に遭遇されました。中には26日から5日以上断水しているところもあるとお聞きしております。

私自身、今から40年以上前寒波により3日間停電

という中で生活した経験が一度だけありますが、今回このような事態になった原因は、人が住んでいない空き家や、週末やお盆・正月にだけ使われるいわゆる「半空き家」等で水道管が老朽化し、漏水が相次いだことだと指摘されています。

また、北海道や山形などの寒冷地に比べて、石川県ではあらかじめ水を抜く「水抜き栓」が無かったり、水道管が地中の浅いところに設置されていて、凍結対策が乏しいとも言われているようです。これには正直びっくりしました。

今回の様な寒波襲来が事前に判る時には、水道管の凍結防止ヒーターのプラグがきちんとコンセントに挿されているかを確認することや、冬季に数日留守をするような時には事前に水抜き栓を使って水を抜き、水道の凍結を防止するなどの対策をしっかりとっていただければと思います。

寒空の下、断水でお風呂にも入れないのでは困ったものですから是非お忘れなきようお願いしまして本日の会長あいさつとさせていただきます。

それでは本日もロータリー活動を楽しみましょう。ありがとうございました。

### 本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	37名	—	20名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



## ゲスト卓話

# 赤十字の仕組みと活動について

日本赤十字社 山形県支部

事業推進課 課長 長谷部 儀典氏

### 赤十字の誕生と日本赤十字社の設立

**◆赤十字の誕生**

スイス人の実業家 アンリー・デュナンは、1859年のイタリア統一戦争の激戦地「ソルフェリーノの戦い」における悲惨な光景に遭遇し、「傷ついた兵士は、もはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は奪われなければならない」と説き、敵味方の区別なく救護を行った。

帰国後、彼は、この時の出来事を「ソルフェリーノの思い出」として著し、この中で国際的な救護団体の必要性を訴える。

この著書は、ヨーロッパ各国で大きな反響を呼び、1864年にジュネーブ条約が調印されて、**国際赤十字組織**が誕生した。



アンリー・デュナン  
(1828-1910 スイス人)

**◆日本赤十字社の設立**

ソルフェリーノの戦いから18年後、1877年の日本では、西南戦争の激化により義勇軍と政府軍の両軍で、多数の死傷者が出る。

この惨状を目の当たりにした、元元老院議員の**佐野常民**と大給謙は、日本における戦時救護団体の必要性を痛感し、1867年のパリ万国博覧会にて創られた国際赤十字の組織と活動からヒントを得て、**日本における赤十字組織の設立**を思い立つ。

佐野、大給両人を発起人として、1877年の5月、熊本にて有栖川宮徳仁親王から日本赤十字社の前身である「**博愛社**」の設立許可を得る。

以降、災害救護をはじめ様々な人道活動を展開しながら、**今日の日本赤十字社** に辿りつく。



佐野 常民  
(1823-1902 日本人)

**◆現在の赤十字**

○赤十字が設立されている国……192ヶ国  
標章の種類は、現在、以下の3種類が認可されている




赤十字      赤新月      赤水晶(レッドクワスタル)

### 赤十字マークの意味について

**◆赤十字マーク(標章)について**

**赤十字マークは2つの重要な意味をもっています**



①「保護」  
紛争時などにおいて傷ついた人々とその人たちを救護する赤十字関係者や赤十字施設、軍隊の衛生部隊・施設等を**保護**します。

②「表示」  
一般の団体や会社等のマークと同じく、赤十字に所属することを**表示**します。

※標章に関する国内法で使用が厳しく制限されている。  
「赤十字の標章及び名称等の使用の制限に関する法律」「商標法」

### 日本赤十字社の組織・概要について

「病院」「薬局」などを表すマークとして使用し続けると…

- 「赤十字マーク」が単に「病院・薬局などを表すマーク」という**誤ったイメージ**が出来上がってしまう。
- 「保護」のイメージの重大さが無いがしろにされ、**十分に保護できなくなる**。
- 赤十字施設を表す「表示」の意味で使用している「赤十字マーク」に対する**信頼感が薄れる**。

⇒ **日頃から正しい理解をし、適切に使用しなくてはならない**

**◆日本赤十字社について**

◎日本赤十字社は、**日本赤十字法**に基づき設置された**認可法人**

※東京に本社(港区芝大門一丁目)をおき、全国47都道府県に支部、病・産院、血液センター、社会福祉施設などを設置し、活動を展開

施設名称及び設置数	
支 部	47
医療施設	118
看護師等養成施設	20
血液事業施設	229
社会福祉施設	28

◆日本赤十字社の事業

- 国際活動  
世界中の紛争や災害の被災者に支援の手を。
- 国内災害救護  
災害現場での医療救護や救護物資の配布等。
- 医療事業  
地域医療への貢献。災害などに備えて医師、看護師を訓練。
- 看護師等養成事業  
救護や医療にあたる看護師などを養成。
- 血液事業  
安定した血液製剤の供給。若年層を中心とした献血の啓発活動。
- 社会福祉事業  
子どもやお年寄り、障害のある人のための社会福祉施設の運営。
- 救急法等の講習  
病気やけがの予防ととっさの時の手当などの講習会を実施。
- 赤十字ボランティア  
赤十字を支え合うボランティア。助け合う心。
- 青少年赤十字  
学校を通じていのちと健康を大切にする意識や思いやりの心を育成。

赤十字活動は、みなさまからいただいた活動資金で支えられています。

日本赤十字社山形県支部の事業の取り組みについて (R4実績)・国際活動 (山形県支部)

■目的

国際赤十字の一員として、開発途上国における健康・安全の確保や、海外の災害や紛争の被災者支援など、海外の救援・支援ニーズにあわせた人道的活動を展開する。

1 海外救援事業のための募金活動



各地で多くの県民の方々からご協力をいただいた

令和4年度 NHK海外たすけあい街頭募金活動の様子

3 ベトナム教育支援事業



ベトナムでの学用品配布の様子

◆日本赤十字社の活動財源について

日本赤十字社の活動財源

援助は一切無し 国や地方公共団体

資金協力 個人 法人・団体

安定的な活動財源の確保と事業の推進を図るため、赤十字会員への加入促進に努めている

1 海外救援事業のための募金活動 (令和5年1月末日現在)

義援金	件数	金額
中東人道危機救援金	85件	416,174円
バングラデシュ南部避難民救援金	112件	124,852円
アフガニスタン人道危機救援金	111件	128,153円
ウクライナ人道危機救援金	597件	29,843,670円
2022年アフガニスタン地震救援金	122件	161,946円
2022年パキスタン洪水救援金	68件	79,728円

2 国際救援活動の支援



ラオスにおける救急法普及支援事業



バスマツにおける青少年赤十字海外支援事業

国内災害救護 (山形県支部)

■目的

「災害から被災者のいのちと健康を守ること」を軸として、災害時の初動救護活動を迅速・的確に行うための人材の育成等に努め、災害対応能力の強化を図る。

※日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置付けられ、災害救助法において、国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規定されています。



日本赤十字社

## 1 医療救護班の編成と防災ボランティアの登録

＜医療救護班の編成状況＞

地区	市町村	医療機関
村山	山形市	山形県立中央病院
		山形市立病院済生館
	東根市	北村山公立病院
最上	河北町	山形県立河北病院
	新庄市	山形県立新庄病院
置賜	米沢市	米沢市立病院
	川西町	公立置賜総合病院
庄内	鶴岡市	鶴岡市立荘内病院
	酒田市	日本海総合病院

22

日本赤十字社

## 2 医療救護班の編成と防災ボランティアの登録

＜防災ボランティアの登録状況＞

村山地区	最上地区	置賜地区	庄内地区	合計
42名	1名	10名	16名	69名

23



日本赤十字社

## 救急法等講習の普及(山形県支部)

### ■ 目的

**人間のいのちと健康、尊厳を守るために、救急法等の5つの講習を通して、具体的な知識や技術を県民に広く普及し、緊急時の応急対応能力を高める。**

28

日本赤十字社

## 1 救急法等講習の実施

(令和4年12月末現在)

講習名	一般普及講習		短期講習		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
救急法	19回	306名	228回	6,166名	247回	6,472名
水上安全法			20回	493名	20回	493名
雪上安全法			1回	15名	1回	15名
幼児安全法			70回	1,157名	70回	1,157名
健康生活支援講習			1回	8名	1回	8名
合計	19回	306名	320回	7,839名	339回	8,145名

29

日本赤十字社

## 赤十字ボランティア(山形県支部)

### ■ 目的

**地域社会における赤十字運動を推進していくため、赤十字奉仕団の育成と技術の向上に努める。**

31

+ 日本赤十字社

### 1 県内の赤十字奉仕団登録状況

地域奉仕団結成地区区分区……**県内24市町村**  
(令和5年1月末日現在)

種類	団数	団員数
地域奉仕団	37	3,811
特殊奉仕団	5	236
青年奉仕団	2	177
合計	44	4,224

32

+ 日本赤十字社

### 2 ボランティア・リーダーの養成



ボランティア・リーダーの役割学習(支部)



毛布を使った担架搬送法(支部)



身近な物を用いた非常食作りの実践(支部)

33

+ 日本赤十字社

### 3 ボランティアによる地域でのPR活動

実施奉仕団	実施場所
高島町赤十字奉仕団	高島町糠野日生涯学習センター



非常炊き出しの方法を学ぶ来場者



親子で心筋蘇生を体験

34

+ 日本赤十字社

### 4 被災地支援活動

■東日本大震災復興支援事業

実施時期	対象	参加人数
10月10日	気仙沼市唐桑町大沢地区住民	約50名





復興支援事業の活動の様子

35

### 青少年赤十字(山形県支部)

+ 日本赤十字社

### ■目的

次世代を担う児童・生徒が、**赤十字を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成に努める。**

37

+ 日本赤十字社

### 1 青少年赤十字の目標

**実践目標**

- 健康・安全
- 奉仕
- 国際理解・親善

**態度目標**

- 気づき
- 考え
- 実行する

### 2 青少年赤十字加盟状況

(令和5年1月末日現在)

	総児童・役員数	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
加盟数	19園	86校	44校	25校	2校	176校・園

38

+ 日本赤十字社

### 3 メンバーの育成

研修会名称	開催時期	会場
高等学校青少年赤十字リーダーシップ研修	6月	山形市/WEB
小・中学校青少年赤十字リーダーシップ研修	8月	新庄市



小・中学校リーダーシップ研修



青少年赤十字防災教育プログラム

39

+ 日本赤十字社


### 4 防災教育出前授業の実施

(令和5年1月末日現在)

対象者	開催時期
中山町立中山中学校	7、9、11、1月
日本大学山形高等学校	7月
山形市教育委員会	9月
山形市立東沢小学校	11月

40

## 血液事業(山形赤十字血液センター)

 日本赤十字社

### ■目的

県民の健康と生活を守るため、県、市町村並びに関係団体と連携しながら、献血推進啓発活動を行う。

42

 日本赤十字社

### 1 献血実績

区分	令和4年度(12月末)			令和3年度同時期		
	献血者数	移動採血車	献血ルーム	献血者数	移動採血車	献血ルーム
全血献血	21,548	17,998	3,550	21,510	18,588	2,922
成分献血	9,983	—	9,983	10,202	—	10,202
合計	31,531	17,998	13,533	31,712	18,588	13,124

43

 日本赤十字社

### 2 献血の普及・啓発



移動採血のための献血バスを各地に派遣



全国学生クリスマス献血キャンペーン活動

44

## ニコニコ情報

諏方均／長谷部様、ゲスト卓話ありがとうございました。日本赤十字社の仕組みと活動について理解を深める事が出来た事、感謝申し上げます。

高橋恭治／長谷部様、本日は卓話ありがとうございました。とても勉強になりました。また、お話が聞ける機会を楽しみにしています。

石山徳昭・佐竹猛／本日は、赤十字の仕組みと活動について、長谷部様より卓話を頂きありがとうございました。赤十字について見識を深めることが出来たことに感謝申し上げます。